牛久：学校周辺に見る自然

第31号　中根小　2010年7月17日発行

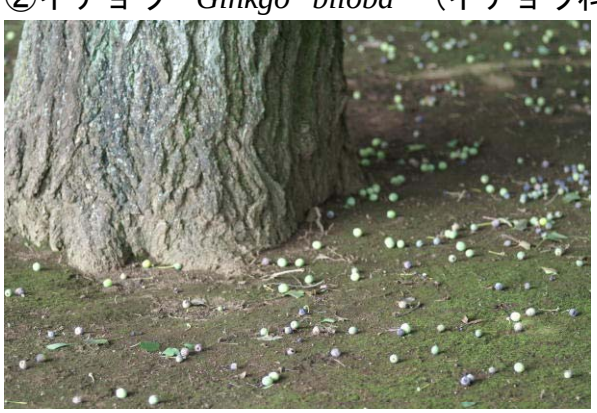
＜１年生生活科・学校のまわりを探検しよう！　～その２＞

7/15、中根小１年生生活科の、学校のまわりの生き物探しの続きです。

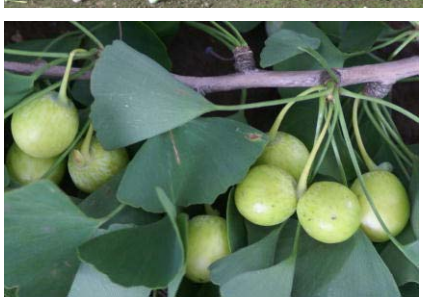
①エノキ　*Celtis sinensis*　（ニレ科）

観察ビンゴに載せた絵はこの写真です。これもずいぶんと大きな木でしたね。根もとがタコの足のようで、思わず「すご～い」という声がでました。熱帯の、根もとがロケットの羽のようになった木の写真にもびっくりでしたね。エノキもさらにもっと大きくなると、根もとが板状に広がることもあるようですよ。

②イチョウ　*Ginkgo biloba*　（イチョウ科）



ビンゴにあった「おちている木のみ」では、まず最初にカヤの実、続いてヤマグワ、サンショウと見つけましたが、さらに神社の奥へ目を向けるとまだ緑色の実がたくさん落ちていました(上)。初め、「何の実だろう？」と首をかしげていましたが、一緒に落ちている葉を見て分かりましたね。秋に黄色の葉がきれいなイチョウでした。２日前には下左のようなたくさんの実をつけた枝も落ちていましたが、きれいに掃除しているようで、この日は落ちている実の数も少なくなっていました。近くにイチョウの子ども(下右)が出ていましたが、これは秋に落ちた実から育ったもので、今落ちている実は芽を出すことなく終わります。



（※ カヤやイチョウは裸子植物なので本当は「実」とは呼べません。）

③コブシ　*Magnolia praecocissima*　（モクレン科）

長い毛におおわれたコブシの花芽(左)を見つけてくれた子がいました。もう冬の準備をしているのですね。近くには緑色の実が膨らんできていました(右)。【理科支援員・宮内】